

大会テーマ

認証評価の効果を問う

—現実を直視しヤル気ができる評価を目指して—

2004年から始まった認証評価制度は5年目に入り、現時点でその効果を問うことが求められています。このことを通して、あらためて評価とは何のため・誰のために行うのかを明らかにしていきたい。また、評価の取り組み、そのシステムおよび「評価環境」の現実を直視し、とりわけそこでの問題点を明らかにするとともに、その解決策を探っていく中で「ヤル気ができる評価とは何か」を共に考えたいと思います。

**日時：2009年3月14日（土）13：00 受付開始
～3月15日（日）17：00 終了**

場所：名古屋大学教育学部（東山キャンパス）

（名古屋市千種区不老町、TEL:052-789-2602）

○最寄り駅：地下鉄名城線「名古屋大学駅」より徒歩約5分

参加費：会 員 1500 円（学生・院生 1000 円）

会員外 3000 円、懇親会費 4000 円

大会連絡先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町、名古屋大学教育学部内

第6回全国大会実行委員会 委員長：植田健男

同 事務局：川口洋誉

E-mail: hiro5473@mb.i-chubu.co.jp

<大学評価学会 共同事務局>

〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 大阪大学・大学教育実践センター 望月研究室 E-mail: taromoch@cep.osaka-u.ac.jp

<事務連絡先> 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学 重本研究室 気付 E-mail: sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp

TEL: 075-645-8634 (龍谷大学・細川研究室)

3月14日(土)

11:00 ~ 12:30 第Ⅲ期 第4回理事会(大会議室)

13:00 ~ <受付開始>

13:30 ~ 14:20 年次総会(大講義室)

14:30 ~ 14:35 開催校挨拶

14:35 ~ 18:00 シンポジウム(大講義室)

テーマ: 認証評価の効果を問う

——現実を直視しやる気のでる評価を目指して——

<シンポジスト>

1) 「認証評価の現状と課題——(財)大学基準協会の経験から——」
田中一昭氏(大学基準協会・専務理事)

2) 「大学の改革・改善に資する認証評価を目指して」
伊藤敏弘氏(日本高等教育評価機構・評価事業部長)

3) 「高等教育政策を評価できる認証評価を目指して」
日永龍彦氏(山梨大学・大学教育研究開発センター教授)

○コメンテーター: 中村征樹氏(大阪大学)

○司会: 重本直利氏(龍谷大学)

18:15 ~ 20:00 懇親会(名古屋大学生協・フレンドリー南部)

3月15日(日)**10:00 ~ 12:30 分科会(午前の部)**

第Ⅰ分科会 座長:津田道明(日本福祉大学) 大講義室

テーマ:「大学評価のなかの職員、大学づくりのなかの職員」

<趣旨>

国立大学法人の「中期目標」と暫定評価および文科省による「法人評価」において、「大学管理システム」の確立・強化の一環として、事務機構の再編や「人事評価」＝職員の業務評価、人事考課などの人事制度改革が強まっている。一方、「法人化」のもとで、従来から職員内部にあった文科省主導の人事・業務管理システムへの批判や反発を背景に、新たな人事制度をもとめる活動も顕在化している。「大学評価」のなかで、これら職員層をめぐる最近の動きに注目し、大学づくりをささえる職員の現場はいまどのように展開しているか、を第1の柱として議論したい。第2には、第1の問題を下敷きに、さまざまな大学づくりの運動—とくに学生・院生の諸活動や学生生活とのかかわりで、大学職員は、学生・院生からどのような認識を持たれているか、に触れたい。また、大学行政の一端を担っている側面だけでなく、大学自治の担い手としての職員層の現状や期待、あり方など、職員問題を多面的にとらえて議論したい。第3の柱は、私立大学の職員問題をめぐって、私立大学法人も「競争的環境」のもとで、新たな事務機構改革や人事制度改革を強めているなかで、あらためて、大学職員の「本務」とは何か、学生・院生・教員の諸活動の推進＝大学の学習・教育・研究の発展や、地域社会と大学、大学の地域貢献にむけた職員の役割などについて、私立大学での実践事例をもとに、職員のありかた、課題、大学づくりにおける協働の問題を議論する。

- 1)「掲げた目的が見えない国立大学法人の人事評価制度—事務職員アンケートの結果が語る人事への不満—」
戸田貞一氏(名古屋大学医学部附属病院経営企画課専門職員)
- 2)「大学組織における学生の位置づけ—その現状と課題—」
田中秀佳氏(名古屋大学大学院)
- 3)「大学の地域貢献にむけた職員の役割—愛知大学・三遠南信地域連携センターにおける活動実践を通して—」
岸本恵次郎氏(愛知大学監査室長)

第Ⅳ分科会

自由論題報告(1) 座長:蔵原清人氏(工学院大学)(第一講義室)

- 1)「1990年代以降のOECDにおける大学ガバナンス概念の検討」米津直希氏(名古屋大学・院生)
- 2)「『学士課程教育』と大学評価」細川孝氏(龍谷大学)

自由論題報告(2) 座長:井上秀次郎氏(愛知東邦大学)(第三講義室)

- 1)「高等学校における学校評価の実態と課題点」岩崎保道氏(同志社大学・院生)
- 2)「これから開設して評価される医療職養成課程とは？」
坂崎貴彦氏(名古屋大学大学院医学系研究科博士課程)、他5名
- 3)「PDCAサイクルは大学評価に適合するか—管理と評価の相異、経営学からの考察—」
重本直利氏(龍谷大学)

12:30 ~ 13:30 <昼食休憩、第Ⅲ期第5回理事会(大会議室)>

3月15日(日)

13:30 ~ 16:00 分科会(午後の部)

第Ⅱ分科会 座長:橋本勝氏(岡山大学) 大講義室

テーマ:「社会から見た大学力評価」

<趣旨>

社会は大学をどのように捉えているだろうかと考えたとき、当然のことながら一様ではない。受験生・高校サイドに映る大学と産業界が期待する大学とはかなり異なるし、それらを繋ぐ媒体としてのメディアの大学の捉え方も様々である。大学評価制度の導入による大学の変化に期待する人々もいれば、むしろ変わりつつある大学に危機感を抱く人もいる。一方、本質的に日本の大学は全く変わっていないという見方もある。そうした雑多な考え方の集合として、社会は現状の、そしてこれからの大学をどうみているのであろうか。本分科会では、大学外のような立場の方から率直に現代の「大学力」を評価してもらい、社会が大学力をどう見ているのかについて活発に議論してみたい。

1)「学生が人を殺した、その時大学は?—大学のリスクマネジメントと説明責任を考える—」

小林哲夫氏(『大学ランキング』編集統括)

2)「就職率偽装を大学はいつまで続けるのか」

石渡嶺司氏(『最高学府はバカだらけ』著者)

3)「附属高校の親から見た大学力」

松本哲男氏(名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校PTA会長)

4)「中小企業から見た大学に期待すること」

鋤柄修氏(中小企業家同友会全国協議会会長・エステム会長)

第Ⅲ分科会 座長:望月太郎氏(大阪大学) 第三講義室

テーマ:「法人評価について」

<趣旨>

国立大学法人化からもうすぐ5年、文科省内に置かれた法人評価委員会による第1期中期目標・中期計画の達成状況についての暫定評価が行われている。追って法人化された公立大学についても、地方自治体行財政局等に置かれた法人評価委員会による業務実績に関する評価が漸次実施されている。私立大学においても、監査対象は従来以上の広がりを見せ、大学法人の業務全般が対象となってきており、財務格付けなども盛んに行われている。このような状況の中で、今一度、何のための法人評価か、大学のステークホルダーにとってそれほどの意味をもつものか、法人評価をめぐる論点を整理し、将来を展望したい。

1)「国立大学法人評価の経過と実際」

山田康彦氏(三重大学教育学部長)

2)「私立大学から見た法人評価」

榊達雄氏(名古屋芸術大学学長・名古屋大学名誉教授)

3)「格付け会社から見た大学法人の評価——経営の安定に必要な要素は何か——」

下山直人氏(格付投資情報センター)

○コメンテーター:和田肇氏(名古屋大学)

16:10 ~ 17:00 総括討論 大講義室